

守り伝える武蔵の小京都  
手すき和紙の技を



こんにちは、あずまです。今日は東上線に乗って、小川町へ行ってきました。ここは埼玉伝統工芸会館 道の駅「おがわまち」です。手すき和紙体験をして、可愛い和紙のハガキを作ってきましたよ。  
(MAPの①)

今回の登場人物



笛谷 幸子

あずまの先輩講師で、相談相手でもある。趣味は家庭菜園。



業平 道子

あずまの母親。小学生向けの英会話教室を経営する。趣味は園芸。



業平 あずま

業平家の長女。母親が経営する英会話教室を手伝う。趣味は旅行。



池袋から急行で約70分「小川町駅」に到着しました。小川和紙や酒造などの伝統で古くから栄え、「武蔵の小京都」と呼ばれています。また、宮ノ倉山などのハイキングコースの起点にもなっています。

小川町

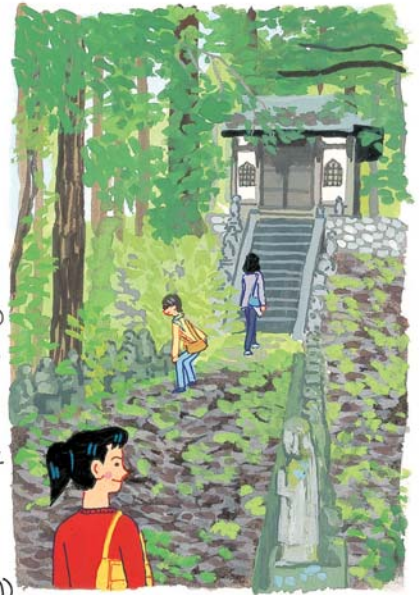
(おがわまち)

周囲を豊かな自然と外秩父の山々に囲まれ、町の中央に槻川が清らかに流れる小川町。中世から鎌倉と上州を結ぶ鎌倉街道の要衝として栄えた町を歩けば、歴史を秘めて佇む史跡や黒い板塀の旧家、漆喰の土蔵、格子戸の並ぶ商家の軒先など、往時の面影をいまに伝える風情ある建物が残っています。「武蔵の小京都」と呼ばれる小川町のシンボルともいえる伝統工芸といえは、千年以上の歴史をもつ小川和紙です。



小川町には3つの酒蔵があり、ここはそのひとつ「晴雲酒造」です。酒蔵の見学もできます。地元の野菜と仕込み水を使った食事が楽しめるレストラン「自然処 玉井屋」、さらに蔵ギャラリーと酒蔵資料館も併設しています。(MAPの㉔)

最初に訪れたのは「仙覚律師遺跡(万葉の里)」。仙覚は鎌倉時代の僧侶で、この地で学問的価値の高い「万葉集注釈」を完成させたとのこと。その顕彰碑が立っていました。ここはそのそばにある半僧坊権現。この地はまた中世の城跡「中城跡」でもあります。(MAPの㉕)



ここは旧小川村の総鎮守「八宮神社」。天忍日命(オシホミノミコト)など八柱を祀っていることから、この名がついたそうです。本殿の三面と破風に龍や獅子などたくさんの、緋糸で見事な彫刻がありましたよ。(MAPの㉖)



ランチに入った「ベリカフェ つばさ 游」は、とてもユニークなお店。毎日日替わりでシェフが変わります。ちなみに私たちが行った土曜日は「よし田さん家の台所」。地元の野菜が主役という共通点があるようです。(MAPの㉗)

## 万葉集を味わいながら市街地を散策

東武東上線とJR八高線が交差する小川町駅の改札は南口のみ。駅前のロータリーからおおよそ500m四方ほどの区域が小川町の中心街です。そのメインストリートである花水木通りに沿って、プレートのモニュメントが立ち並んでいます。そこには「基」として万葉歌とその解説が書かれ、その歌にふさわしい小川町の情景や花の写真が添えられています。その名も「万葉モニュメント」。実は小川町と万葉集には深い関係があるのです。

万葉仮名で書かれた万葉集を解き明かして注釈書を完成させたのは、仙覚律師という鎌倉時代の学僧。その大事業を成し遂げた場所が小川町だったといわれることから、小川町駅前から中城跡にある仙覚律師遺跡までの道案内として、70基のモニュメントが設置されたのです。と同時に、これに沿って歩けば小川町中心街の散策コースにもなる仕組みです。

このコース上にあるのは、赤レンガの煙突が目印の晴雲酒造。良質の水と気候に恵まれた小川町は「関東灘」の異名をとった銘醸地で、いまも3軒の造り酒屋が伝統の味を競っています。なお、晴雲酒造では蔵を自由見学することが出来ます。

仙覚律師の顕彰碑が建つ丘は、中城と呼ばれる中世の城跡。源義経に仕えていた土豪・猿尾氏の居城だったと伝えられています。最近の発掘調査では異説も考えられているようです。なにせよ、小川町を含む比企郡一带にはまだまだ謎に包まれた中世の城館跡が森の中や山中にひっそりとその痕跡を留めています。



鐘楼を兼ねた山門がユニークな「西光寺」です。山門をくぐると、境内には見事な枝垂れ桜が春の姿も是非、見てみたいもの。室町時代後期に創建され、「大寺」という名で親しまれている曹洞宗のお寺です。(MAPの⑤)



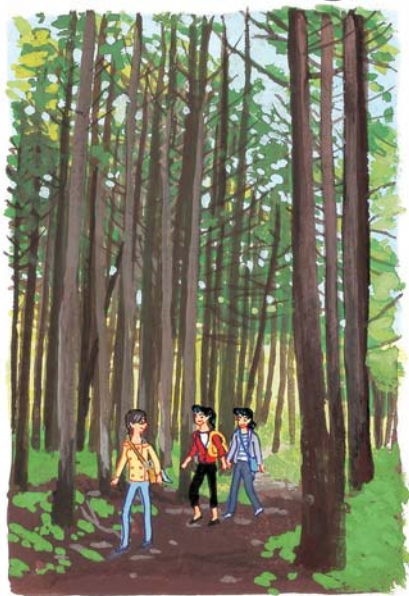
「埼玉伝統工芸会館 道の駅「あがわまち」」の中にある「工芸の里物産館」。小川町特産の和紙製品・竹細工・鬼瓦などがそろいます。隣の「麵工房かたくり」では、地元産の小麦を100%使ったうどんが大人気です。(MAPの④)



全長203mのローラーすべり台がある「仙元山見晴らしの丘公園」に、ようやく到着。展望台からの眺めも最高でした。童心に帰って私たちもすべり台を楽しみました。すべりながら見える景色も素晴らしかったですよ。(MAPの⑥)



「仙元山見晴らしの丘公園」へ向かう道は、林間の緩やかな坂道を上っていきます。ちょっとしたハイキング気分。国蝶のオムラサキが放されている林でもあり、世界の蝶や昆虫が見られる展示館兼休憩所もあります。(MAPの④)



## 伝統の小川和紙に挑戦 手すき体験をしてみよう

次に市街地を抜けて、**槻川**の流れに沿って広がる**仙元山**と和紙の里コースを辿ってみましょう。

旧小川村の総鎮守・**八宮神社**の本殿は必見。3面と破風に龍・唐獅子などを配した中国風俗の彫刻が施されています。作者は上州花輪の石原常八。

槻川の近くを走る国道沿いに埼玉伝統工芸会館道の駅「**あがわまち**」が見えてきました。物産館では小川町の特産品が勢揃い。この地域には「**らほう菜**」という江戸時代からの伝統野菜が栽培され、それを使ったお菓子も販売しています。

さらに真指定の伝統的手工芸品のすべてを展示しており、とりわけ小川町特産の和紙は、年間を通して手すき体験ができます。手すきた作品は、乾燥などの工程を経て後日郵送。ハガキや色紙、短冊など、世界にひとつのマイ和紙を作ってみてはいかがでしょうか。

この地域には他にも和紙の工房やお店がありますが、有名な小川和紙の中でも格だけを使った「**細川紙**」の技術は、国の重要無形文化財です。

ここから槻川を渡って仙元山へ向かいます。

西光寺は室町時代創建の古刹。山門の上に鐘楼が乗っかる珍しい造りで、「大寺」の通称で親しまれています。

ようやく仙元山の中腹に広がる見晴らしの丘公園に着きました。爽快に滑り降りる全長203mのローラーすべり台は大人気で、子どもから大人まで楽しめます。展望台からは山々に囲まれた小川町を見渡せます。なるほど「**武蔵の小京都**」を実感する景観です。



此企の伝統野菜を使った  
「のらぼう菜どら焼き」



メインストリートなどには、仙覚  
律師にちなんだ万葉モノメント  
(歌碑)があちこちに。

小川町データファイル

〈小川町観光案内所「楽市おがわ」〉・・・●交通=小川町駅徒歩2分 ●営業時間=9:30~17:00 ●休所日=月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始 \*臨時休所日あり ☎0493-74-1515

〈埼玉伝統工芸会館 道の駅「おがわまち」〉・・・●交通=小川町駅徒歩40分、小川町駅からパークヒル行バスで「伝統工芸会館前」下車徒歩1分 ●開館時間=9:30~17:00(入館は16:30まで) \*「麵工房かたくり」は11:00~14:00 ●休館日=月曜(祝日の場合は開館)、祝日の翌日(土・日・祝日の場合は開館)、12/29~1/3 ●入館料(埼玉伝統工芸会館)=大人(高校生以上)300円/小人(小・中学生)150円 ☎0493-72-1220

〈仙元山 見晴らしの丘公園〉・・・●交通=小川町駅徒歩40分、小川町駅からパークヒル行バスで「八宮神社入口」下車徒歩20分 ●休園日=月曜(祝日を除く)、12/29~1/3 ●ローラーすべり台利用時間=9:45~16:30(6月~8月は9:30~17:30/12月~2月は10:00~15:30) ●ローラーすべり台利用料=大人(高校生以上)200円/小人(小・中学生)100円/未就学児 無料(保護者の同乗が必要) ◎公園管理事務所 ☎0493-73-1000

〈晴雲酒造〉・・・●交通=小川町駅徒歩10分 ●営業時間=9:00~17:00(水曜のみ12:00~13:00屋休み) ●休業日=1月1日(1/2~1/3は短縮営業) ●酒蔵見学=20~60分、無料 ●併設のレストラン「自然処 玉井屋」=11:00~17:00(L.O.16:00)、水曜定休(祝日の場合営業) ☎晴雲酒造0493-72-0055/玉井屋0493-71-1450

〈ベリカフェつばさ・遊〉・・・●交通=小川町駅から徒歩2分 ●営業時間=11:30~17:00(水曜は~21:00、木曜と日曜は~16:00) \*年中無休 ◎高橋 ☎090-4453-6355

